

(永遠のストリート最速ロマン)

オヤジチューナー爆走魂!

1番速く
走りたかったから
チューニングが
必要だった。

by 稲木 勝
ABJ組木エンジニアリング
☎03-3677-2383



オレがこのチューニングの世界に入ったのは、ただ走りたかったからなんだ。最高速を極めるためにね。全盛は17年くらい前かな、真剣に走ってたよ。大学対抗だったりチーム対抗だったり、常に勝負してた。相手がつぶれるまで……。ま、それ以降チューニング屋としてABJを始めたんだけど、今はいろんな意味で会社を改善していくって思ってる。でも、時代の流れなんだろうけど、昔を思うと、今の「何が何でも公認主義」っていうのはちょっと寂しい気がするよね。オレはこれからもチューニングは過激に極めていきたいんだけどさ。

オヤジチューナー爆走魂!

今はとにかく、
新ショップを
軌道に乗せる!
これにすべてを
賭けてます。

by 柿本由行
柿本レーシング ☎0722-85-5050



L型ではとりあえず満足な記録を作った。ABJドラッグ、これが若い人たちにも記憶にあるウチの姿やないかな。ま、昔を振り返ったところで……って氣にするからエエか。とにかく、今は4月にオープンさせたファクトリー、これに全身全霊を注いでます。日本イチのショップにしたいんや。それに、どーセやるならチューニングショップの指標になるようなショップにしたいしな。シャシダイだって1300ps対応やし、ウチのオリジナルパーツはもちろん、オレが選び抜いたパーツを自信を持ってお客様に提供する。量産店じゃない、チューニングショップにしかできないプロのサービス、させてもらいます！

Mレーシング 亡き光田勝利氏に捧ぐ by Dai 稲田

光田さんは
コワモテだったけど、
気風のいい
走り屋チューナー。
眞連の任侠だったね。



昨年、光田さんはひっそりと亡くなられた。以前から赤血球に問題があるとかで入院していたんだけど、見舞に行った時は、「よ一来ててくれたなー。難しい病気なんやけど、見てみー、クルマはいつも見れるんや」と言って目で指した駐車場には、黒のS30Zが置いてあった。この乙こそ、光田さん、いやミスターMの人生そのものだった。ゼロヨン初期のトーナメントで常にトップを爆走した派手なクロキンZ、腹肝を抜いたS54日の速さ、そして、彼の風貌に気付かれながらも、きっちり挨拶した初対面の時、「ええ名前やな、根性もええな。よろしゅうな」と言ってくれたことは忘れない。乙とL型チューンにこれほど命を賭けた人はいない。改めて黙謹。

オヤジチューナー爆走魂!

チューニング
人生としては
やっと大人に
なったって感じやね。
今はまだ成熟期だよ。

by マッキー 牧原
トライアル ☎0722-54-7039



20歳チョイくらからチューニング、それもL型にハマッてのめり込んでた。ま、Lしかなかったんやけどな。雑誌のテストで谷田部があるゆーても、オレらは大阪から自走で行くんで。しかも当時は常磐道なんかあらへんかったから、そらも~大変！ 片道14時間くらいかかるから旅行みたいなもんや。でも楽しかったなあ。完全燃焼してた。当時は今みたいにフリーの人はチューニングしなかったから、お客さんなんかゴンタクレバっか。チューナーもそんなお客さんにナメられちゃいけないから、みんなやたらつばっちょつやつてさ。目なんかギラギラしてんの。懐かしいよね。元々、趣味で始めたチューニングやから、20年後にはまた仕事としてじゃなくて趣味としてチューニングは続けていきたいな。でも今はまだチューナーとしては成熟期。まだまだやめられへんっ！

オヤジチューナー爆走魂!

足腰が
まともなうちは、
まだまだ
チューニングは
やめられないねえ！

by プロフェッサー 山本
RSヤマモト ☎048-477-7661



昔はなにもかもが「？」のワケわかんない状態でクルマ作ってたけど、それが充実してたし楽しかった。時間を忘れてクルマ、作ってたよね。チューニングパーツなんか昔はメチャクチャなの多かったから、今のクルマはメチャクチャやブレーキなんか昔じゃレーシングカーにしか使ってなかつたようなパーツがツーリングに付いてくるじゃない。チューニングしていっても十分に耐えられるよーなさ。スピードだってそこそこはカンタンに出せちゃう。だから今は、ファッショナルにチューニングを楽しむ人がほとんどなんだ。カリッカリにいじろうっていう人が少なくなってきたんだよね、残念なんだけ……。だから今後、カリッカリなフルチューンが好きなオレとしては、仕事は仕事としてまた別にして、商売又きでの趣味として、速さを追求していかないと意味があった。

稻田…そういえば、あの頃は関西にも少し型が多かった。今でもチューニング最前线にいるのは、柿本さん、トライアルの牧原さん（当時はチャレンジ）、F1の源さんやファクターの松下さん。けっこ

やってますね。ただ、個性でいけば最高だったMレーシングの光田さんは亡くなっちゃいましたね。ストリートから谷田部の最高速時代へ移ったの雨宮…みんな少しは丸くなつたけど、話してみると、中身は変わつてないんだよね。Daiちゃんたって、現役で走つて

大川…ボクはトラストに入つたばかりで、ちょうどターボチューンがこれから、という時代だった。セリカで苦労しながら、谷田部参りだったですね。それからソアラあたりでモノになつていった。稻田…もともと、谷田部で最高速をやりだしたのは、東名レースでギャラリーが増えて、危なくなつてきたから。やっぱりちゃんととしたテストコースで記録を争おうと思って始めたんです。ま、ストリートの延長線だった。これは今も同じで、やはり、チューニングの成果はテストコースじゃないと確認できない。しかも今

のクルマは速すぎますしね。38ターボなんか、タービン交換、ブーストアップだけで300km/hの世界でしょ。サスペンションだって基本的にしっかりしているから、昔よりゼンゼン安全ですよ。昔は雨さんとのRX-7で280km/h以上出るのはコワかった（笑）。でも、いつ頃からですか、雨さんとがロータリーエンジンのチューンよりエアロのほうへ変化していったのは？

雨宮…やはり最高速があつたからだよ。エアロはただの飾りじゃなかつた。安定して最高速チャレンジするために必要なアロヨン仕様にしたり。今はベンツのワゴンに560のエンジン載つけているよね。なんか、仕事のウサ晴らしみたい。改造にかけてはハンパじゃないね（笑）。大川…それだけはやめられない。でもホンネを言えば、ル・マンで勝ちたい。ウチはレース好きばかりで、トラストを作った。マフラーから始めたのもレースをやりたかったからです。いろんなレースをやりましたけど、今はル・マン優勝

これからもどんどん チャレンジするよ

稻田…雨さんは今でも土曜の夜は走り続けていますけど、最近、大川さんはトラストの専務だから、昔みたいに走れないんじゃないですか？ 大川…ウーン。事故つてからかな。ちょっと自制してるのは事実。でも走るときは走るよ。Daiちゃんは？ 稲田…ボクも最近はさうムチャしないみたいですね。気持ちは昔と同じなんですけど、それでもいつも新しいチャレンジは続けていますよ。

稻田…今までけっこ市販車ベースを作りて、ミッドシップにロータリー載りましたね。今度のAZ-1ベースのヤツは本格的でしょう。稻田…雨さんとは、やはりカスタム改造してきたわけだけど、どうしてもモノ足りなくなる。で、今度はシャシーから作って、ミッドシップにロータリー載せて、本物のスポーツカー作つてみたい。オレの夢、自分で作つたクルマでレースやりたいね。で、DaiちゃんのOPTion Land、どうなつてんの？

雨宮…その感覚でドリフトなんて、相変わらずだね。昔とゼンゼン変わってないよ。それに、今、ドリフトに凝つてて楽しいですね。最高速、ゼロヨン、そしてドリフトとくると忙しいですよ。



翌年、初日の出バトル。雨さんも、柿本さんも、アツィタイプの寺川さんも、その時代から鍛え上げ続けている走り屋だ（PHOTO：OHTA）
感謝！ / ABJ組木エンジニアリング